

実相寺の

仁王さん

平成八年十一月五日号

岩本の実相寺は、日蓮聖人しやうにん りつしやあんてんが立正安国論を練り上げ、説法を行った寺として知られています。

また、この寺にある一対の仁王像は、江戸初期につくられたもので、市の指定文化財になっています。

今回は、この仁王さんのお話です。

昔、日本に仁王という力持ちが住んでいました。仁王は日本中の力持ちと相撲や綱引きをしました。だれも相手になりませんでし

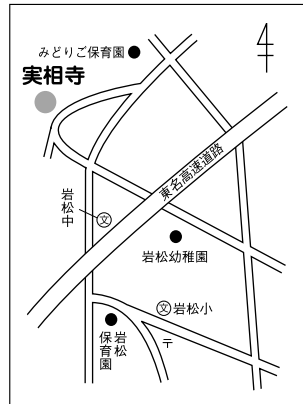
た。そんなある日、

「仁王ど
ん、隣の中
国に『どっ
こい』とい
う力持ち
がいるそ
うな」と教える者がいました。そこで仁王は

「よし、力比べをしてみよう」と舟をこいで中国へ出かけていきました。

国中を探し、やっどどっこの家を見つけましたが、どっこいは留守で、ばあさまがいきました。「そろそろ戻るから待っていなさい」と始めた飯の支度を見て仁王はびっくり。大きな釜に何俵もの米を入れて炊き出したのです。

すると、ズッシン、ドシンと地響きが聞こえてきました。仁王が「ばあさま、あれは何



の音じゃ」と聞くと「あれは息子の足音じゃよ」。そのうちに家が地震のように揺れ始めました。

仁王は「これはかなわん、今のうちに逃げよう」と思い、便所から逃げ出しました。

どっこいが帰ってくると、入り口に大きなわらじがありました。「お客さん?」「ああ、日本の仁王が力比べにやってきました。今、便所に入っているよ」。ところが、なかなか出てこないのです、のぞいてみると、もぬけの殻。どっこいは、大きないかりを持って追いかけてました。

遠くに仁王の舟が見えました。どっこいは「力比べをせずに逃げるとはひきょうだ」と言つて、舟を目掛けていかりを投げました。すると、いかりは見事、舟に突き刺さりました。

仁王は必死で舟をこぐ。どっこいは綱を引く。二人はお互いに力持ちです。とうとう綱

は切れてしまい、仁王は海に落ち、どっこいも力余つて海に倒れました。ドドド…。大きな津波が起きて日本と中国に押し寄せ、大勢の人々が死んでしまいました。

仁王は「悪いことをした。もう二度と力比べはしないから許してくれ」と中国にも行って謝り、日本に帰つてからは、お寺の門番になりました。どっこいも日本にやってきました。謝り、「もし、何か力のいるときはおらを呼んでください。そうしたら一生懸命働きますから」と言つて帰っていきました。

それからというもの、今でも人々は力を出すときに「どっこいしよ」とどっこいを呼ぶようになったのです。

(日本のふしぎな話

「におうとどっこい」から)

▶ 仁王像



鈴木正義さん（岩本）

昔は、実相寺の仁王門の屋根裏にムササビがすんでいたんだよ。仁王門の横に杉の太木があつて、門との間を飛び交っていたっけ。

仁王さんは、子どもにはちよつと怖いものらしいね。このあたりの子どもは、悪さをすると「仁王さんのところへ捨ててきちやうぞ」とよくしかられたもんさ。